

# 感染症の登園基準

R7.2改定

感染力の強い伝染性の病気は完治するまで、家庭で安静にし、登園する際は医師の証明書を提出して下さい。

病 名	主 な 症 状	感染しやすい期間	登園のめやす (出席停止期間)
麻疹（はしか）	発熱、咳、くしゃみ、結膜炎、発疹がでる。	発症1日前から発疹出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	発熱、咳、のどの痛み、関節の痛みがある。	症状が有る期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで（幼児（乳幼児）にあっては、3日を経過するまで）
新型コロナウイルス感染症	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、臭覚異常等	発症後5日間	発症した後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過すること※無症状の感染者の場合は、検体採取日を0日目として、5日を経過すること
風しん	軽い風邪症状、発熱と共に発疹がでる。	発疹出現の前7日から後7日間くらい	発疹が消失してから
水痘（水ぼうそう）	発熱と共に、水泡のある発疹が出来る。	発疹出現1～2日前から痂皮形成まで	すべての発疹が痂皮化してから
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発熱、耳の下が腫れる。	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核	咳、痰、発熱など風邪のような症状で、2週間以上良くなったり、悪くなったりを繰り返す。	肺結核の場合、喀痰の塗布検査が陽性の場合	医師により感染の恐れがないと認めるまで
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、のどが赤くなり、目の充血、目やにが出る。	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎	目が急に赤くなり、まぶたが腫れて目やにが出る。	充血、目やに等症状が出現した数日間	症状が消失
百日咳	特有の咳が夜中に多く続く。	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26、O111等）	激しい腹痛、発熱。下痢、嘔吐を繰り返す。	便の中に菌が排泄されている間	症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎	目の痛み、異物感、充血、まぶしさや結膜下出血を伴う事が多い。頭痛、発熱、呼吸器症状が見られる。	ウィルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヶ月排出される。	医師により感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎（Hib感染症）	発熱、頭痛、首の硬直、発疹等の症状が見られる。		医師により感染の恐れがないと認めるまで

下記の感染症は医師の証明書の提出は必要ありませんが、必ず受診して登園の可否を確認してください。

病 名	主 な 症 状	感染しやすい期間	登園のめやす
溶連菌感染症	発熱、発疹、いちご舌、のどが赤く痛みがある。	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過している事
マイコプラズマ肺炎	鼻水、咳、発熱等の風邪症状が続く。乾いた咳が長期間続き痰が絡んで夜間の咳が激しい。	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっている事
手足口病	手のひら、足の裏、口の中に米粒大の水泡ができる。	手足や口腔内に水疱・潰瘍（かいよう）が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍（かいよう）の影響がなく、普段の食事がとれる事
伝染性紅斑（りんご病）	ほっぺがリンゴのように赤くなる。手、足、お尻に発疹ができる。	発疹出現前1週間	全身状態が良い事
ウィルス性胃腸炎（ノロ、ロタ、アデノウイルス等）	激しい嘔吐と下痢、風邪のような症状を伴う。	症状のある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが数週間ウィルスを排泄しているので注意が必要）	嘔吐と下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれる事
ヘルパンギーナ	突然の発熱（38～39℃）で始まり、水泡ができ痛みを伴う。	急性期の数日間（便の中に1ヶ月程度ウィルスを排泄しているので注意が必要）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍（かいよう）の影響がなく、普段の食事がとれる事
RSウイルス感染症	風邪の一種で鼻水が出て発熱する。小さな子ほど重症化しやすい。	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良い事
帯状疱疹	持続的で焼けるような痛み、刺すような痛みを伴う発疹。	水疱を形成している間	すべての発疹が痂皮化してから
突発性発しん	突然高熱が3～4日続き、熱が下がると同時に全身に発疹が出る。生後6ヶ月～1歳位まで。		解熱し機嫌が良く全身状態が良い事
伝染性膿痂疹（とびひ）	虫刺されなどを書き壊して細菌がつき、水泡ができて広がる。	湿潤な発疹がある間	伝染することもあるので、医師の診断を要する
伝染性軟属腫（水いぼ）	ピンクまたは白の小さな丘疹で中央にくぼみがある。	掻きつづいた箇所からウィルスが出て感染する	伝染することもあるので、医師の診断を要する
疥癬（かいせん）	赤い小さなぼつぼつが、体、腕、脚等に見られ痒みを伴う。	肌と肌等、体が直接当たる事でダニが移動する	伝染することもあるので、医師の診断を要する